

高次脳機能障がい

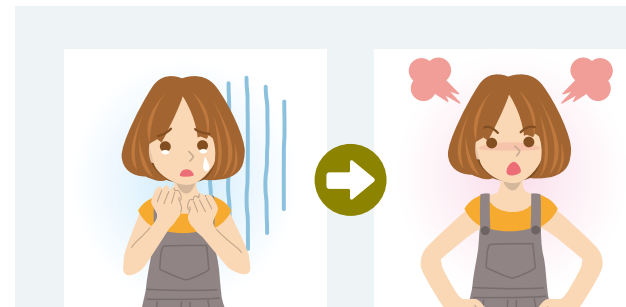
高次脳機能障がいは、交通事故、スポーツ事故、転落事故などによる頭部外傷や、脳血管障がい、脳腫瘍、低酸素脳症などの脳疾患などにより脳に損傷を受け、記憶障がい、注意障がい、失語や感情のコントロールの低下といった社会的行動障がいなどが引き起こされるものです。

高次脳機能障がいの症状は脳の損傷部位によりさまざまであり、後天的な障がいであるため、これまで当たり前でできていたことができなくなったことへの対応に、本人も周囲も戸惑ってしまう場面が多くあります。

困っていることを理解しましょう

少し前のことをすぐ忘れてしまう、注意力が散漫で集中力が続かなく、言葉がうまく出てこない、うまく伝えられない、おつりの計算など簡単な計算ができない、よく

知っているはずの道に迷うことがあります。会話する際には、ごく普通であるのに、行動するとした時に簡単なことができない人もいます。そういったことから、なかなか周囲の理解を得ることができません。

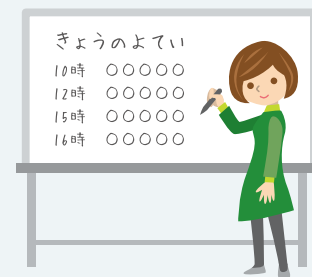


何らかのきっかけでいきなり泣きだす、怒りだすなど感情のコントロールが難しい人もいます。冷静に話をすることが困難な場合が多いため、時間をかけ、落ち着くのを待ちましょう。

こんなことに配慮しましょう

物事が思い出せない、覚えられないといった場合には、必要に応じて言葉で伝えるだけでなくメモを渡すなどしましょう。何らかのきっかけでいきなり泣きだす、怒りだすなど感情のコントロールが難しい人には、冷静に話をすることが困難な場合が多いため、時間をかけ、落ち着くのを待ちましょう。

新しいことを覚えられない、約束を忘れてしまうなど記憶に障がいがある人には、メモやスケジュール表など、目に見えるかたちで手助けをしましょう。



言語障がい

言語障がいは、失語症と構音障がいがあります。

失語症は、脳梗塞、脳卒中や脳腫瘍などにより、脳の一部分が傷ついたために言葉がうまく使えない状態をいいます。失語症は、聞いて理解することはできますが、話すことがうまくできず、ぎこちない話し方になる場合や、なめらかに話せるものの言い間違いが多く、聞いて理解することも困難になる場合などがあります。さらに、全ての言語機能に重度の障がいの起きる「全失語」などもあります。

構音障がいは、会話の内容に問題はありませんが、何らかの原因により発音が正しくできない状態のことをいいます。ろれつが回らない人や、食べ物を噛んだり、飲み込んだりすることが難しい人もいます。

困っていることを理解しましょう

失語症は、話すことだけでなく、「聞く」「読む」「書く」ことも難しくなります。構

音障がいのある人は、発音が不明瞭となり、なかなか聞き取ってもらえないことがあります。

こんなことに配慮しましょう

失語症の人には表情がわかるよう、顔を見ながら、ゆっくりと短いことばや文章でわかりやすく話しかけましょう。一度でうまく伝わらない時は、繰り返して言ったり、別のことばに言い換えたり、文字や絵で書いたり、写真・実物・ジェスチャーで示したりすると理解しやすくなります。「はい」「いいえ」で答えられるように問いかけると答えやすくな

ります。話し言葉以外の手段(カレンダー、地図、時計など身近にあるもの)を用いると、コミュニケーションの助けとなります。

構音障がいのある人には、わかったふりをせず、相手の言っていることの傾聴に努めましょう。どうしても聞き取れない場合や、発音が困難な場合は、相手の了承を取ったうえで、筆談などでコミュニケーションをとることができます。



言語に障がいのある人は、言葉がうまく出てこないことがあるので、その人のペースに合わせて、優しく接しましょう。プレッシャーを与えてしまうと、コミュニケーションに対して意欲を失ってしまうことがあります。